

2023_0807「濃密巻雲（写真）」日々の理科 3287号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

「巻雲（けんうん）」は、十種雲型の中でも、最も高い空に現れる雲です。高度 10000m 前後に形成されるので、100%氷晶の雲です。よく「刷毛で描いたような」とか「鳥の羽根のような」と形容され、かつては「絹雲（けんうん）」の字も充てられていました。

実際に巻雲は非常に薄い雲です。私は航空機の機内からよく雲を観察しますが、旅客機の巡航高度では、ほとんどの雲は機の下に見えます。着陸態勢に入ると、積雲でも層積雲でも、どうしてもその中を突破しなければいけません。低層の雲では通過に時間がかかり、大抵は揺れを感じます。

しかし、巻雲はちがいます。国際線の旅客機の場合、機は巻雲の高さまで上昇することが多く、時には巻雲層を突破することがあります。巻雲は積雲とちがって、ごく薄いので、1秒もかからずに通過できるのです。

巻雲は、十種雲型の中でも最も多くのバリエーション（変種）が知られています。尾曳巻雲、鈎状巻雲、背状巻雲、肋骨状巻雲などです。この日見た雲は「濃密巻雲」といって、雲粒（氷粒）が最も集約された巻雲です。写真の下部に写っている灰色の雲は「片積雲」（千切れ雲）という、非常に低い空を速く動く雲です。

（2023年8月上旬／埼玉県比企郡小川町）

